

JAPAN BASKETBALL STANDARD 2016

-Version2-



1. はじめに	—————	2
2. JBSの理念・スローガン	————	3
3. JBSのビジョン・目標	————	4
4. JBSのミッション・ロードマップ	—	5
5. コンテンツの構成	—————	6
6. アクションプラン	—————	7

1. はじめに

「JAPAN BASKETBALL STANDARD」(JBS)は、日本のバスケットボールの未来を輝かせるために、日本のバスケットボールに関わる全ての人が、1つの理念に向かい、1つのチームとして、持つべき「志」、目指すべき「目標」、行うべき「行動」を示したものです。

これまで、日本のバスケットボールは都道府県協会、各種連盟をはじめとした皆様の崇高なボランティア精神とバスケットボールへの情熱によって普及・発展してきました。もちろん、今後も関係者の皆様にご協力を頂きながら、更なる発展を目指していかなければならないことには変わりはありません。

しかし今、バスケットボールに限らず日本のスポーツ界全体が、時代の変化に伴い、これまで通りの運営や体制では国内で競技を広めることも、世界と対等にわたり合うことも困難な状況に直面しており、それぞれが大きな変革を迫られているのです。

このような状況の中、国内バスケットボール界の統括団体であるJBAとしては、日本のバスケットボールの未来に向け、「統一された理念」、「統一された組織運営」、「統一された発展戦略」といった、これまでにはなかった「考え方」や「意志」を示すことが急務と考えております。

「JBS」は、日本のバスケットボールが、世界のバスケットボールが進もうとしている新しい時代に対応し、国内における更なる普及・発展を企図して日本のメジャースポーツとなるための改革を一步一步着実に進めていくために必要な「新しい日本バスケットボールの『基準』」であると言えます。

2016年4月、まずは2030年のJBAの設立100周年に向けて、日本のバスケットボール界が1つのチームとなって目指していく指針を示すために、本誌「JBS 2016」を策定いたしました。

ここに描いた目標を現実のものとするためには、大きな力が必要です。

JBAは、B.LEAGUE／都道府県協会／各種連盟等、全てのバスケットボールファミリーの皆様と今後更に連携を強化し、より良い日本のバスケットボールの未来を作り上げてまいります。

2-1 理念

“バスケットボールで日本を元気にします”

この言葉には、「日本中でバスケットボールを楽しむ人が増え続けること、その人達がバスケットボールを楽しめる環境が充実していくこと、そしてその中から日本代表選手が生まれ日本人選手が世界で活躍すること、それが日本社会を元気にしていくこと」、こんな気持ちが込められています。

単にバスケットボールという競技が盛んになるというだけでなく、競技者、指導者、審判、運営、愛好者などすべてのバスケットボールファミリーの生活が豊かになることで、その周りにいる家族や友人、地域コミュニティなどすべての方を「元気」にするために、現状に満足することなく未来に向けてあらゆる壁を乗り越えて挑戦していきます。

2-2 スローガン

“Break the Border” ～超えて未来へ～

スローガン“Break the Border”～超えて未来へ～は、現在日本バスケットボールにある見えない「壁」や「境界」を突き破り、さらにバスケットボールを広げていきたいという強い意思を表しています。

2016年秋、二つに分かれていた男子トップリーグが境界線を壊してB.LEAGUEが誕生する。バスケットボールファミリーの意識の中に引かれたバスケット界に対する境界線を壊す。

日本代表が世界の強豪国と伍して戦いアジアの壁を突き破る。

日本バスケットボールは、あらゆる “Border” を “Break” していきます。

3. JBSのビジョン・目標

3-1 ビジョン

これから2030年に向けて、日本バスケットボールが目指すべきビジョンを「強く」「広く」「社会のために」という3つのキーワードで表しました。このワードには、日本バスケットボールが競技面だけでなく組織として成熟し、多くの仲間とともに、社会に受け入れられるスポーツに成長していきたいという思いを込めています。

3-2 目標

また、ビジョンを実現していくための目標にはJBA100周年となる2030年までに私たちが特に推進していくべき項目を掲げました。目標を、定量的で具体的に設定することにより、今後、バスケットボールファミリーが進むべき方向、達成すべき内容が明確になり、それがこれまで以上に日本バスケットボールの成長スピードを高めていくことを可能にする、と考えています。

ビジョン	2030年までの達成目標
強く ■競技を強くする ■組織を強くする ■事業を強くする	【強化育成】 ■NBA/WNBA選手を常時輩出する ■男女日本代表：オリンピックでメダルを獲得する ■3×3男女日本代表：世界選手権でメダルを獲得する 【組織】 ■組織力・運営力を強化し、世界選手権大会の日本開催実績を含め、日本スポーツ界で名実共にトップ3、世界バスケットボール界でトップ10の団体になる 【事業】 ■バスケットボール産業規模を500億円にする ■JBAの事業規模を100億円にする ■情報システムインフラを構築する
広く ■仲間を広げる ■楽しさを広げる ■支援の輪を広げる	【普及】 ■バスケットボールファミリーを200万人にする ■これらを実現するための環境(施設・運営)を整備する
社会のために ■スポーツ文化／アリーナ文化の振興に寄与する ■バスケットボール／スポーツを通じて地域社会に貢献する ■バスケットボール／スポーツを通じて国際理解の促進に寄与する	【社会貢献】 ■アリーナ文化の象徴となるナショナルバスケットボールアリーナの実現 ■地域社会におけるコミュニティの創出支援 ■国際人材の輩出

4. JBSのミッション・ロードマップ

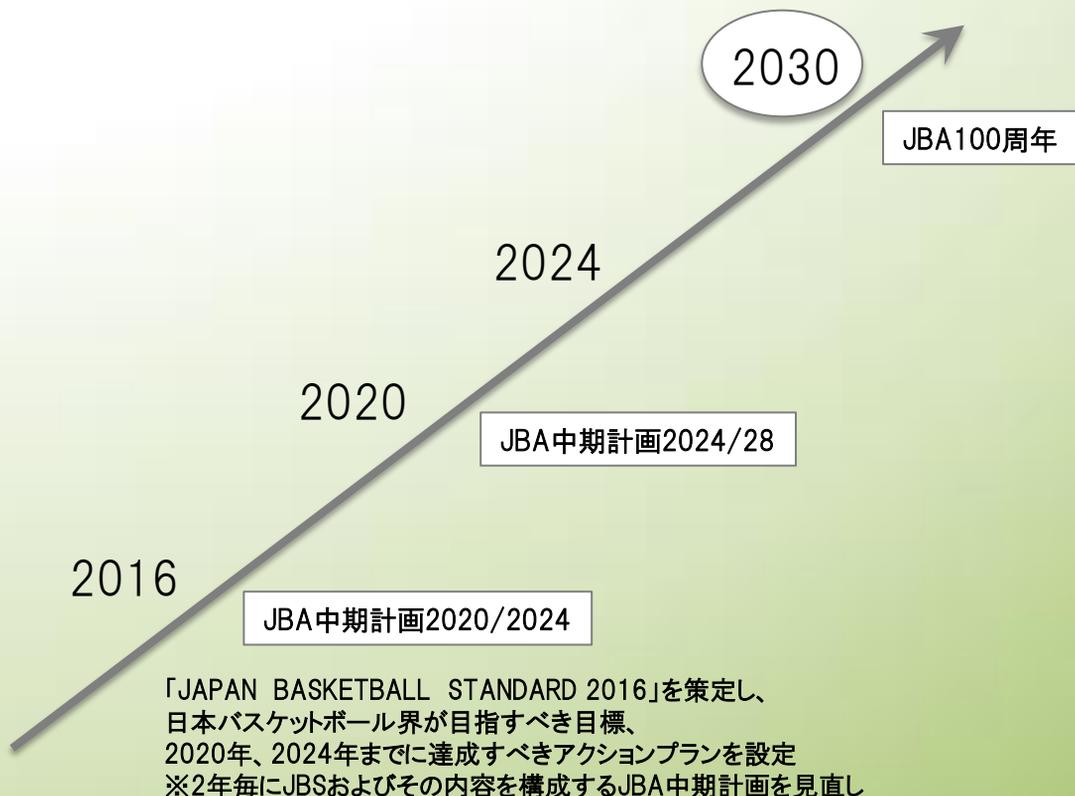
4-1 ミッション

日本バスケットボールが発展するためには、統一された理念、統一された組織、統一された戦略が欠かせません。「JAPAN BASKETBALL STANDARD 2016」ではバスケットボールファミリーとして取り組むべき15のミッションを掲げました。日本代表が世界で活躍し、多くの人々がバスケットボールをプレーしたり見て楽しんだりすることができる環境整備のために、組織基盤を強化することで事業価値を高め、バスケットボールが社会に貢献できる組織に成長していくことを目指しています。

4-2 ロードマップ

JBAが掲げる「JAPAN BASKETBALL STANDARD 2016(JBS2016)」には達成すべき目標、ミッション、そしてアクションプランがまとめられています。JBAは、2030年のJBA100周年をターゲットに、B.LEAGUE、都道府県協会、各種連盟などバスケットボールファミリーの皆さんと共にこの目標を達成していきます。

策定された「JBS2016」およびその内容を構成する「JBA中期計画2020／2024」は2年毎に見直され、常に最新の状況で運用されていきます。



5. コンテンツの構成

ビジョン	視点	ミッション	アクションプラン
V1 強く	強化育成	M1-1 日本代表強化	AP1-1-① 世界で勝ち抜くための「Japan's way」の確立
			AP1-1-② 国外強化システムの構築・実践
			AP1-1-③ 3×3日本代表強化システムの確立
		M1-2 育成環境の整備充実	AP1-2-① 年代別育成方針の確立・徹底
			AP1-2-② タレント発掘／育成システムの構築
			AP1-2-③ エリート選手養成制度の確立
		M1-3 競技環境／競技会の整備充実	AP1-3-① 日本代表の戦略的マッチメイクの企画・立案
			AP1-3-② ユース日本代表の国際試合経験値の蓄積
			AP1-3-③ アジア・オセアニア圏における国際試合増による競技力向上
	組織	M2-1 組織基盤の構築・強化	AP2-1-① JBAの組織基盤の構築・強化
			AP2-1-② 都道府県協会の組織基盤の構築・強化
			AP2-1-③ 各種連盟の組織整備・連携強化
		M2-2 Basketball Presenceの向上	AP2-2-① 国際バスケットボール界における地位向上
			AP2-2-② 国内スポーツ界における地位向上
			AP2-2-③ 教育現場(学校体育)へのアプローチ
		M2-3 プロリーグとの連携強化	AP2-3-① 都道府県協会とプロクラブの協働
			AP2-3-② 育成・強化システムの制度面整備
			AP2-3-③ toto対象競技を目指した条件整備
	事業	M3-1 マーケティング戦略の設計・推進	AP3-1-① B.LEAGUEとの協働による総合的マーケティング基盤の整備
			AP3-1-② マーケティング活動の実践
			AP3-1-③ ブランディング戦略の設計・推進
		M3-2 日本代表戦・各種大会の再設計・価値向上策の推進	AP3-2-① 日本代表戦の価値向上策の推進
			AP3-2-② 既存大会の再設計／新規大会の創設
			AP3-2-③ 事業化を実現する運営体制の確立
		M3-3 情報戦略の設計・推進	AP3-3-① 情報戦略プランの設計・実施
			AP3-3-② 情報セキュリティポリシーの構築・運用
			AP3-3-③ デジタルマーケティングの実施
V2 広く	普及	M4-1 競技者・エンジョイ・3×3人口の拡充	AP4-1-① 登録制度・大会環境の整備／リーグ文化の醸成
			AP4-1-② あらゆる年代層のプレー環境の整備・提供
			AP4-1-③ 3×3の普及促進
		M4-2 人材の養成	AP4-2-① 審判ライセンス制度の整備・推進
			AP4-2-② 指導者ライセンス制度の整備・推進
			AP4-2-③ マネジメント人材の養成
		M4-3 バスケットボールを楽しむ環境の整備	AP4-3-① 「見る人」のための環境整備
			AP4-3-② 他産業・異業種とのコラボレーション
			AP4-3-③ 全国各地(屋外を含む)でのバスケットボールゴールの設置推進
V3 社会のために	社会貢献	M5-1 全国の体育館の「アリーナ化」推進	AP5-1-① 日本におけるアリーナのあるべき姿の提案
			AP5-1-② 地域行政との関係構築／Bクラブホームアリーナを含めたアリーナ新設・改修への働き掛け
			AP5-1-③ 「ナショナルバスケットボールアリーナ」新設に向けた各種関連組織への働き掛け
		M5-2 社会Presenceの向上	AP5-2-① 国民の健康増進・健全育成への寄与
			AP5-2-② 地域振興・活性化への寄与
			AP5-2-③ 環境保全への寄与
		M5-3 国際交流の促進	AP5-3-① 国際交流・協力機関との連携
			AP5-3-② 国際人材育成の制度設計
			AP5-3-③ バスケットボールを通じた文化交流

※次頁以降の各アクションプランの頁には、当該アクションプランの主担当、副担当を表記しています。

表記凡例 【主】主担当、【副】副担当

【A】JBA、【B】B.LEAGUE、【C】都道府県バスケットボール協会、【D】各種連盟、【E】障がい者バスケットボール団体

6. アクションプラン

ミッション

1-1 日本代表の強化

アクションプラン

主 副

① 世界で勝ち抜くための「Japan's way」の確立

A -

業務目標

2020年の目標

- ▶▶ Japan's wayの設定
- 【男子】
- ▶▶ NBA選手を3名輩出
- ▶▶ 2019WC出場
- ▶▶ 2020東京オリンピック自力出場
- ▶▶ ユース日本代表:アジア選手権での常時優勝
- 【女子】
- ▶▶ WNBA選手を5名輩出
- ▶▶ 2018WCでメダル獲得
- ▶▶ 2020東京オリンピックでメダル獲得(2030目標の達成)
- ▶▶ ユース日本代表:世界選手権で常時3位以上

2024年の目標

- 【男子】
- ▶▶ NBA選手を常時5名以上輩出
- ▶▶ 2023WCでベスト16以上
- ▶▶ 2024オリンピックでベスト8以上
- ▶▶ ユース日本代表:世界選手権で常時ベスト8以上
- 【女子】
- ▶▶ WNBA選手を常時5名以上輩出
- ▶▶ 2022WCでメダル獲得
- ▶▶ 2024オリンピックで連続のメダル獲得
- ▶▶ ユース日本代表:世界選手権で優勝

業務プラン

Road to 2020

- ① Japan's way策定チームの設置
- ② Japan's wayの定義の設定
- ③ 世界各国の戦術調査・分析
 - ・調査計画(調査内容含む)の立案
 - ・調査の実施・分析
 - ・調査結果の発表
- ④ Japan's wayの設定
- ⑤ Japan's wayの伝達・周知
- ⑥ Japan's way実現のための強化活動
- ⑦ Japan's way実現のための環境整備
 - ・チームスタッフ/フロント体制の最適化
 - ・選手招集制度の確立
- ⑧ 2020年東京オリンピックを目標とした強化活動の実施
 - <個人>
 - ・有望選手の選定
 - ・個人強化特別プログラム(年間)の策定・実行支援
 - ・選手の短期海外派遣の実施
 - <チーム>
 - ・2017~2020年のチームスタッフの選定
 - ・2017~2020年の強化計画の策定
 - ・関係各所との調整(選手所属リーグ・チーム等)

Road to 2024

- ① Japan's wayの検証
- ② 世界各国の戦術調査・分析の継続実施
- ③ Japan's wayの伝達・周知の継続実施
- ④ Japan's way実現のための強化活動
- ⑤ Japan's way実現のための環境整備
 - ・チームスタッフ/フロント体制の最適化
- ⑥ 2024年オリンピックを目標とした強化活動の実施
 - <個人>
 - ・有望選手の選定
 - ・個人強化特別プログラム(年間)の策定・実行支援
 - ・選手の短期海外派遣の実施
 - <チーム>
 - ・2021~2024年のチームスタッフの選定
 - ・2021~2024年の強化計画の策定
 - ・関係各所との調整(選手所属リーグ・チーム等)

アクションプラン

主 副

② 国外強化システムの構築・実践

A

-

業務目標

2020年の目標

- ➔ 3カ国(NF)との強化パートナーシップ協定の締結
- ➔ 2カ国リーグとの協定締結(男子)

2024年の目標

- ➔ 6カ国(NF)との強化パートナーシップ協定の締結
- ➔ 4カ国リーグとの協定締結(男子)

業務プラン

Road to 2020

【チーム強化システム】

- ① 国外NFとの強化パートナーシップ協定の締結
 - ・協定国と協定内容の決定
 - ・交流試合の実施(3試合/年)
 - ・国外キャンプの実施(1回/年)
- ② 国外リーグとの協定
 - ・協定リーグと協定内容の決定
 - ・交流試合の実施

【個人強化システム】

- ① 国外での強化拠点の活用
 - ・拠点の選定
- ② 留学制度の確立
 - ・留学生の選考基準の策定
 - ・語学研修
- ③ 国外クラブとの協定による選手研修制度

Road to 2024

【チーム強化システム】

- ① 国外NFとの強化パートナーシップ協定の締結
 - ・協定国と協定内容の検証・更新
 - ・交流試合の実施(6試合/年)
 - ・国外キャンプの実施(2回/年)
- ② 国外リーグとの協定
 - ・協定リーグと協定内容の検証・更新
 - ・交流試合の実施

【個人強化システム】

- ① 国外での強化拠点の活用
 - ・拠点の選定
- ② 留学制度の確立
- ③ 国外クラブとの協定による選手研修制度

アクションプラン

主 副

③ 3×3日本代表強化システムの確立

A -

業務目標

2020年の目標

- ▶ 国内リーグ戦(個人戦)の導入
- ▶ 男子:世界選手権で入賞
- ▶ 女子:世界選手権でベスト4以上

2024年の目標

- ▶ 男子:世界選手権でベスト4以上
- ▶ 女子:世界選手権でメダル獲得(2030目標の達成)

業務プラン

Road to 2020

- ① 3×3強化方針の策定
 - ・総括
 - ・海外の強化システム(制度)の調査
 - ・3×3Japan's wayの確立
- ② 3×3強化体制の構築
- ③ 3×3強化システムの確立
 - ・3×3選手の海外派遣制度の構築
 - ・5on5と連携した選手発掘システムの構築
 - ・5on5との流動性の確保
 - ・FIBAポイント獲得のための施策検討
- ④ 世界選手権に向けた代表強化プランの策定と実施
- ⑤ 国内リーグ戦(個人戦)の新設検討
 - ※2020東京オリンピックでの正式種目化を見据えて

Road to 2024

- ① 3×3強化方針の見直し
- ② 3×3強化システムの質の向上
- ③ 世界選手権に向けた代表強化プランの策定と実施

アクションプラン

主	副
---	---

① 年代別育成方針の確立・徹底

A	-
---	---

業務目標

2020年の目標

- ▶ 長期的視野に基づいた年代別選手育成方針の確立 (U18/U16/U14/U12/U10/U8)
- ▶ 12歳以下(U12/U10/U8)の育成方針の徹底

2024年の目標

- ▶ 16歳以下(U16/U14)の育成方針の徹底

業務プラン

Road to 2020

- ① 育成事業推進体制の構築
- ② 育成に関する概念の整理
- ③ 他競技・海外の育成制度の調査研究
 - ・調査計画(調査内容含む)の立案
 - ・調査の実施・分析
 - ・調査結果の発表
- ④ 年代別選手育成方針の確立
 - ・育成方針伝達ツールの作成(組織向け、指導者向け、保護者向け)
 - ・モデルプログラムの策定
- ⑤ 育成方針伝達手段の構築
- ⑥ 育成の視点に基づいた競技会のあり方の提示
 - ・シーズンの考え方
 - ・競技会そのものの考え方
 - ・対象エリアの考え方
- ⑦ 育成の視点に基づいた競技ルールの見直し
- ⑧ アンチ・ドーピング教育・啓発活動の実施

Road to 2024

- ① 他競技・海外の育成制度の調査研究の継続実施
- ② 年代別選手育成方針の徹底
- ③ 育成の視点に基づいた競技会の再編
- ④ 育成の視点に基づいた競技ルールの継続検証
- ⑤ アンチ・ドーピング教育・啓発活動の継続実施

アクションプラン

主 副

② タレント発掘／育成システムの構築

A C

業務目標

2020年の目標

▶ タレント発掘システム／選手育成システムの再構築と運営体制の確立

2024年の目標

▶ タレント発掘システム／選手育成システムの都道府県レベルでの定着実施と市区町村レベルでの実施

業務プラン

Road to 2020

- ① 年代別選手育成方針に基づいた新発掘・育成システムの検討
- ② バスケットボール競技経験者からのタレント発掘システムの構築
 - ・計画策定、現行制度(エンデバー事業)からの移行計画策定
- ③ バスケットボール競技未経験者からのタレント発掘システムの構築
 - ・計画策定
 - ・実施
- ④ バスケットボール競技経験者からの選手育成システムの構築
 - ・計画策定、現行制度(エンデバー事業)からの移行計画策定
 - ・都道府県レベルでの実施
 - ・育成選手の特徴・身体特性等の調査・蓄積
- ⑤ 各都道府県・ブロックを含む各システム運営体制の構築／人材の養成
 - ・JBA内での(マネジメント能力・技術指導能力のある)専任担当者の配置

Road to 2024

- ① バスケットボール競技経験者からのタレント発掘システムの都道府県レベルでの実施
- ② バスケットボール競技未経験者からのタレント発掘システムの都道府県レベルでの実施
- ③ バスケットボール競技経験者からの選手育成システムの市区町村レベルでの実施
- ④ 各都道府県・ブロックを含む各システム運営体制の構築・人材の養成
 - ・ブロックレベルでの(マネジメント能力のある)専任指導者の配置(男女)

アクションプラン

主 副

③ エリート選手養成制度の確立

A -

業務目標

2020年の目標

- ▶▶ エリート選手養成制度より日本代表候補選手を輩出する
- ▶▶ JBAアカデミー計画の立案

2024年の目標

- ▶▶ JBAアカデミーの設立
- ▶▶ エリート選手養成制度より日本代表候補選手を常時輩出する

業務プラン

Road to 2020

- ① 他競技・海外のエリート選手養成制度の調査研究
- ② エリート選手養成制度の計画立案
- ③ エリート選手養成制度の実施
- ④ JBAアカデミー計画の検証・立案

Road to 2024

- ① JBAアカデミー設立計画の実行(資金・人材・場所の選定/確保等)
- ② エリート選手養成制度の検証・更新

アクションプラン

① 日本代表の戦略的マッチメイクの企画・立案

主 副

A -

業務目標

2020年の目標

【男子】
 ▶ 国外での強化試合10試合/年、国内での強化試合10試合/年実施

【女子】
 ▶ 国外での強化試合10試合/年、国内での強化試合10試合/年実施
 ▶ アメリカ代表チームとの強化試合の国内開催

2024年の目標

【男子】
 ▶ FIBAランキング20位以内のチームと国外での強化試合10試合/年、国内での強化試合10試合/年実施
 ▶ アメリカ代表チームとの強化試合の国内開催

【女子】
 ▶ FIBAランキング5位以内のチームと国外での強化試合10試合/年、国内での強化試合10試合/年実施

業務プラン

Road to 2020

- ① マッチメイク担当組織の設置(体制の確立)
 - ・強化的・事業的視点を踏まえた対戦国の選定
 - ・国内(リーグ)調整
 - ・国外交渉・調整
- ② 強化カレンダー(男女)の作成
 - ・4年間の強化カレンダーの作成
 - ・年間の強化カレンダーの作成
- ③ 2017年WC予選(男子)に向けた戦略的マッチメイクの企画
- ④ さいたまスーパーアリーナ(東京オリンピック会場)での強化試合開催

Road to 2024

- ① 強化カレンダー(男女)の作成
 - ・4年間の強化カレンダーの作成
 - ・年間の強化カレンダーの作成
- ② 2024年オリンピックに向けた戦略的マッチメイクの企画

アクションプラン

主 副

② ユース日本代表の国際試合経験値の蓄積

A -

業務目標

2020年の目標

【男子/女子】

- ▶▶ 国外での国際試合20試合/年(各カテゴリー)
- ▶▶ 強化パートナーシップ国との強化試合の実施

2024年の目標

【男子/女子】

- ▶▶ 国外での国際試合20試合/年(各カテゴリー)
- ▶▶ ユース年代の世界選手権大会の国内誘致(男女同時開催)
- ▶▶ U13/14の国外派遣

業務プラン

Road to 2020

- ① 国外大会の調査／主催者との出場交渉
- ② 強化パートナーシップ国との強化試合の調整
 - ・実施概要の策定
 - ・強化パートナーシップ国との調整

Road to 2024

- ① 国外大会の調査／主催者との出場交渉
- ② ユース年代の世界選手権大会の招致計画の立案と実行
- ③ U13/14のチーム編成計画の立案と国外調査の実施

アクションプラン

主 副

③ アジア・オセアニア圏における国際試合増による競技力向上

A -

業務目標

2020年の目標

【男子】

- ▶▶ アジアクラブチャンピオンズカップへの参加
- ▶▶ アジア・オセアニア圏のナショナルチームとの強化試合の実施(3試合/年)

【女子】

- ▶▶ 日中韓台クラブチャンピオンシップの開催
- ▶▶ アジア・オセアニア圏のナショナルチームとの強化試合の実施(3試合/年)

2024年の目標

【男子】

- ▶▶ アジアクラブチャンピオンシップへの継続参加
- ▶▶ アジア・オセアニア圏のナショナルチームとの強化試合の実施(3試合/年)

【女子】

- ▶▶ 日中韓台豪クラブチャンピオンシップの開催
- ▶▶ アジア・オセアニア圏のナショナルチームとの強化試合の実施(3試合/年)

業務プラン

Road to 2020

- ① アジア・オセアニア各国NFとの強化試合の交渉・調整
- ② アジアクラブチャンピオンズカップ(男子)の開催日程を考慮した国内競技会の日程調整
- ③ 日中韓台クラブチャンピオンシップ(女子)の企画立案と各国との調整

Road to 2024

- ① アジア・オセアニア各国NFとの強化試合の交渉・調整
- ② アジア・オセアニアクラブチャンピオンシップ(男子)の企画立案と各国との調整
- ③ 日中韓台豪クラブチャンピオンシップ(女子)の企画立案と各国との調整

2-1 組織基盤の構築・強化

アクションプラン

主 副

① JBAの組織基盤の構築・強化

A -

業務目標

2020年の目標

- ▶ 組織基盤の確立
- ▶ バスケットボール界をリードする人材の育成
- ▶ 財務・会計機能の強化と中長期財政計画の策定
- ▶ JBS実現のための財務基盤強化

2024年の目標

- ▶▶ JBAの事業規模を50億円にする
- ▶▶ JBA事務局人員を70名規模にする

業務プラン

Road to 2020

- ① ガバナンスの強化
 - ・JBA改革推進室の設置
 - ・規約規程の整備
 - ・FIBA規約・通達等への迅速な対応・展開機能の確立
 - ・関係団体とのコミュニケーションの強化
- ② 人事戦略
 - ・人材育成
 - 事務局の人材育成(研修制度の制定等)
 - 役員研修の実施
 - ・人事考課制度の制定
 - 個人目標と評価、処遇の最適化
 - ・女性管理職の登用
- ③ 組織運営戦略
 - ・事業に則した事務局の再編
 - ・事務局内運営規定の整備
 - ・委員会組織の再編
 - ・危機管理体制の整備
- ④ 財務戦略
 - ・過去実績の財務分析
 - ・中長期財政計画と予算配分の考え方の整理
 - ・中長期財政計画の策定と遂行
 - ・会計処理の正確性の向上・効率化
 - ・予実管理の徹底
- ⑤ JBS実現のための積立金計上
- ⑥ 業務の改善と効率化
 - ・PDCAサイクルの実践と徹底
 - ・ITの活用

Road to 2024

- ① ガバナンスの強化
 - ・ヘッドクォーターの設置
 - ・規約規程の見直し
- ② 人事戦略
 - ・人材育成
 - ・事務局各層のレベル別人材育成(ノウハウの蓄積、マニュアルの作成)
 - ・異動のルーティン化
 - ・専門性の高い(法務等)業務の内部機能化
- ③ 組織運営戦略
 - ・事業に則した事務局の再編検討
 - ・都道府県協会、リーグ、海外NF等への人材派遣
- ④ 財務戦略
 - ・中長期財政計画の策定と遂行
 - ・会計処理の正確性の向上・効率化
 - ・予実管理の徹底
 - ・先行投資を含む
- ⑤ 業務の効率化
 - ・PDCAサイクルの定着化

アクションプラン

主 副

② 都道府県協会の組織基盤の構築・強化

C A

業務目標

2020年の目標

- ▶ 都道府県協会の組織基盤の確立
- ▶ ブロック協会の機能化
- ▶ 全都道府県協会での中長期計画の策定
- ▶ 都道府県協会の(都道府県内における)ガバナンスの確立

2024年の目標

- ▶ 全都道府県での中長期計画の検証と新たな計画の策定
- ▶ 都道府県協会の事業規模を平均1億円にする

業務プラン

Road to 2020

- ① 都道府県協会の人材育成サポート
・組織マネジメント研修の実施
- ② 都道府県協会の運営サポート
・JBA職員の派遣制度
・支援金制度の整備
・事例の蓄積と共有
・各種マニュアルの共有
- ③ JBA専門委員会と都道府県協会専門委員会の連携強化
・窓口機能の常設
- ④ ブロック協会の機能化
・ブロック協会の役割・位置付けの検討と整備
・事務局運営形態の検討
- ⑤ 都道府県協会の中長期計画策定サポート
・中長期計画策定に必要な研修会の検討
・都道府県協会における中長期計画の策定
- ⑥ 都道府県協会の都道府県内における傘下団体(都道府県連盟、市区郡町村協会・連盟)統括機能の強化

Road to 2024

- ① 都道府県協会の中長期計画策定・提出管理
- ② 都道府県協会事業の拡大サポート
・既存大会の事業化
・国際大会(親善試合含む)の招致
・新規事業の創出
・助成金事業の拡大
・マーケティング活動の展開
- ③ 各種サポート事業の継続・充実
・支援金制度の拡大
- ④ 都道府県協会評価制度の策定・実施
・評価項目、基準、ポイント等の明確化
・表彰制度の検討

アクションプラン

主 副

③ 各種連盟の組織整備・連携強化

C D A

業務目標

2020年の目標

- ▶ 各年代(カテゴリー)における競技環境の再構築
- ▶ 競技環境に則した組織再編

2024年の目標

- ▶ 各リーグ(連盟)を一気通貫したピラミッド型リーグ構造の構築

業務プラン

Road to 2020

- ① 都道府県協会・全国連盟・ブロック連盟・都道府県連盟の役割・権限の明確化
・情報伝達・決裁ルートの構築
- ② 地域クラブの設立推奨
・地域クラブの受け皿の整備(連盟、大会)
- ③ 各種大会の再構築
・競技大会方針の策定
- ④ 草の根リーグからプロリーグまでの昇降格ルートの整備
- ⑤ WJBLの競技力向上策の検討と実施
・チーム間戦力格差の是正策の検討
・外国籍選手枠導入の検討
・規約規定類の整備支援
- ⑥ 女子リーグのあるべき姿の提言
・検討組織の設置
・あるべき姿の検討
・あるべき姿の提言

Road to 2024

- ① ピラミッド型リーグ構造に即した組織体制の構築
- ② ピラミッド型リーグ構造を実現するための全国・地域(ブロック)・都道府県・地区の運営体制の確立
- ③ 女子リーグのあるべき姿の提言の実行

アクションプラン

主	副
---	---

① 国際バスケットボール界における地位向上

A	-
---	---

業務目標

2020年の目標

- ➔ FIBAとの関係を強めて専門委員会委員を輩出する
- ➔ FIBA ASIA役員をJBAより輩出する
- ➔ 東アジア地区でバスケットボール界トップの団体になる

2024年の目標

- ➔ アジア地区でバスケットボール界トップの団体になる
- ➔ JBAからのFIBA役員に立候補する
- ➔ FIBA専門委員会委員を複数名輩出する
- ➔ NFランキングで20位になる

業務プラン

Road to 2020

- ① 国際情報収集力の強化
 - ・国際部の設置と強化(人材育成)
 - ・FIBAオフィスへの人材派遣(研修)
 - ・NBA/NBAアジアとの人材交流
- ② FIBA、FIBA ASIAに関する研究
 - ・選挙プロセスの研究
- ③ FIBA専門委員会委員への人材輩出策の検討
 - ・ターゲットとなる委員会の選定
 - ・候補者の選出と支援
 - ・FIBAへの働きかけ
- ④ FIBA ASIA役員選挙対策の実施
 - ・東アジア連盟との連携強化
 - ・アジア圏内のNFの支援策の検討
 - ・候補者の選出および選挙活動の展開
- ⑤ FIBA NFランキング
 - ・NFランキング制度の構築要請
 - ・NFランキング対策の検討

Road to 2024

- ① 国際情報収集の継続実施
 - ・国際部の強化(人材育成)
 - ・FIBAオフィスへの人材派遣(研修)
 - ・NBA/NBAアジアとの人材交流
- ② FIBA役員選挙に向けた選挙活動の展開
 - ・候補者の選出(JBA副会長)
 - ・選挙活動の展開
- ③ FIBA専門委員会委員への人材輩出策の検討
 - ・ターゲットとなる委員会の選定
 - ・候補者の選出と支援
 - ・FIBAへの働きかけ
- ④ FIBA ASIA役員選挙対策の実施
 - ・東アジア連盟との連携強化
 - ・アジア圏内のNFの支援策の検討
 - ・候補者の選出および選挙活動の展開
- ⑤ FIBA NFランキング向上施策の実施

アクションプラン

主 副

② 国内スポーツ界における地位向上

A -

業務目標

2020年の目標

- ▶ 東京オリンピックに貢献する
- ▶ 日本3大メジャースポーツの1つとしてバスケットボールの地位を確立する

2024年の目標

- ▶ 国内スポーツ界におけるNFモデルとなる

業務プラン

Road to 2020

- ① 東京オリンピック組織委員会への積極的協力
 - ・組織委員会への人材輩出
- ② 3大メジャースポーツとしての地位確立のための施策
 - ・露出向上策の実施
 - ・メディア戦略の策定と実施
- ③ 他NFとの関係性の構築
 - ・他NFの研究とそれに基づく自己分析・評価
 - ・他NFとの交流
 - ・他NFとの協働事業の実施

Road to 2024

- ① 組織改革実践手引きの作成と他NFへの情報提供
- ② 3大メジャースポーツとしての地位維持のための施策
 - ・露出向上策の実施
 - ・メディア戦略の更新と実施
- ③ 他NFとの良好関係の維持
 - ・継続的な他NFの研究と自己分析・評価
 - ・他NFとの継続交流
 - ・他NFとの協働事業の継続実施

アクションプラン

主 副

③ 教育現場(学校体育)へのアプローチ

A

-

業務目標

2020年の目標

➔ 学校体育(授業)への採用を目的としたJBAカリキュラムの策定

2024年の目標

➔ JBAカリキュラムの学校体育以外での展開

業務プラン

Road to 2020

【学校体育への採用を目的とした取り組み】

- ① 授業用メニュー開発(新種目の開発を含む)
- ② 年代別カリキュラムの作成と展開
 - ・必要要件の洗い出し
 - ・学習指導要領とのマッチング検討
 - ・カリキュラムと指導手引きの作成
 - ・カリキュラムの情報展開
 - ・普及活動
- ③ 学習指導要領対策
 - ・文科省への働き掛け
 - ・教育委員会への働き掛け

【学校施設を中心としたプレー環境整備】

- ① バスケットボール用具・器具の普及活動
- ② 学校体育館の一般開放事業の実施

Road to 2024

【学校体育/それ以外への採用を目的とした取り組みの深化】

- ① 年代別カリキュラムの更新
 - ・カリキュラムの見直し
 - ・普及活動(学校体育以外への普及活動を含む)
- ② 学習指導要領対策の継続実施

【学校施設を中心としたプレー環境の維持拡大】

- ① バスケットボール用具・器具の普及活動の継続実施
- ② 学校体育館の一般開放事業の継続実施

アクションプラン

主 副

① 都道府県協会とプロクラブの協働

B C A

業務目標

2020年の目標

- ▶ 都道府県協会とプロクラブの協力体制の構築
- ▶ 都道府県協会とプロクラブの協働事業の展開

2024年の目標

- ▶▶ 都道府県協会とプロクラブの協働事業の定着化

業務プラン

Road to 2020

- ① 都道府県協会とプロクラブの人材交流促進
- ② 興行(日本代表戦)運営における協力体制構築
- ③ 普及事業の協力体制構築と事業展開
 - ・都道府県協会主催イベントへのプロクラブ選手の参加促進
 - ・プロクラブ主催イベントへの都道府県協会の運営協力
- ④ 育成事業の協力体制構築と事業展開
 - ・プロクラブ指導者を活用したクリニックの実施推奨
 - ・プロクラブのユースチームが参加可能な大会の実施推奨
- ⑤ 協働事業に対する支援制度の構築
 - ・財政的支援の検討・実施
 - ・人的支援の検討・実施
 - ・物的支援の検討・実施

Road to 2024

- ① 継続的な都道府県協会とプロクラブの人材交流促進
- ② 協働興行(日本代表戦)事業の継続実施
- ③ 協働普及事業の継続実施
- ④ 協働育成事業の継続実施
- ⑤ 協働事業に対する支援(制度)の継続実施

アクションプラン

主 副

② 育成・強化システムの制度面整備

A B

-

業務目標

2020年の目標

- ▶ Bクラブのユースチーム保有義務化(～2018年)
- ▶ 若手有望選手のトップリーグ公式試合への出場機会の確保

2024年の目標

- ▶ Bクラブのユースチームのカテゴリー最適化
- ▶ 若手有望選手により編成したチームのトップ(B2)リーグ参戦

業務プラン

Road to 2020

- ① ユースチーム保有制度の設計
 - ・登録・移籍
 - ・指導者
 - ・練習環境
 - ・カリキュラム
- ② 規定の整備
 - ・プロリーグとの制度・規定に関する定例会議の実施
 - ・日本代表候補選手派遣に関する規定の整備
 - ・リーグ日程の調整
- ③ ユース大会の設計

Road to 2024

- ① ユースチーム保有制度の検証と更新
 - ・登録・移籍
 - ・指導者
 - ・練習環境
 - ・カリキュラム
- ② 規定の整備
 - ・プロリーグとの制度・規定に関する定例会議の実施
 - ・リーグ日程の調整
- ③ ユースカテゴリーに応じたユース大会の改編
- ④ 若手有望選手チーム参戦の制度設計

アクションプラン

③ toto対象競技を目指した条件整備

主 副

A B

業務目標

2020年の目標

- ▶▶ toto対応データ運営および各種システムの設計・構築
- ▶▶ toto対象競技を目指したインフラ整備

2024年の目標

- ▶▶ toto対象競技の実現

業務プラン

Road to 2020

- ① セキュリティシステムの設計・構築
- ② 関係者の誤動作・不正防止システムの設計・構築
・不正防止計画および研修制度の確立
- ③ 試合結果の即時データ化および配信システムの設計・構築
- ④ 各種システムの運用ルールの確立
- ⑤ スポーツ庁対応強化
- ⑥ 関連各所への手続きの実施

Road to 2024

- ① toto側商品、システム開発に応じた試合データの提供
- ② セキュリティシステムの質の向上
- ③ 関係者の誤動作・不正防止システムの質の向上
・不正防止計画および研修制度の更新
- ④ 試合結果の即時データ化および配信システムの質の向上
- ⑤ 各種システムの運用ルールの更新

アクションプラン

主	副
---	---

① B.LEAGUEとの協働による総合的マーケティング基盤の整備

A B

-

業務目標

2020年の目標

- ➡ バスケットボール産業規模を300億円にする
- ➡ JBAの事業規模を40億円にする

2024年の目標

- ➡ バスケットボール産業規模を350億円にする
- ➡ JBAの事業規模を50億円にする

業務プラン

Road to 2020

- ① 諸権利の整備
- ② 2016～2019年度に向けてのマーケティングプランの設計
- ③ 2020～2023年度に向けてのマーケティングプランの設計
- ④ バスケットボールマーケティング会社の設立
- ⑤ JBA事務局の事業・運営体制の確立

Road to 2024

- ① 諸権利の再整備
- ② 2024～2027年度に向けてのマーケティングプランの設計
- ③ バスケットボールマーケティング会社への委託内容の見直し

アクションプラン

主 副

② マーケティング活動の実践

A B

業務目標

2020年の目標

- ▶ 代表関連事業規模15億円
- ▶ JBA主管大会事業規模6億円
- ▶ その他事業規模1.5億円

2024年の目標

- ▶ 代表関連事業規模28億円
- ▶ JBA主管大会事業規模7億円
- ▶ その他事業規模3.5億円

業務プラン

Road to 2020

- ① 代表関連事業
 - ・スポンサー：マーケティング会社を通じたセールスの実施
 - ・チケット販売：チケット料金体系の検討（市場価格を吟味した価値の適正化・最大化）
 - ・放送・通信：B.LEAGUEとの協働による企画立案・セールスの実施
 - ・マーチャンダイジング：日本代表ロゴを活用した商品の開発・販路の開拓
- ② JBA主管大会事業
 - ・スポンサー：マーケティング会社を通じたセールスの実施
 - ・チケット販売：各大会に応じたチケット料金体系の再検討、収容人数を加味した試合会場の選定
 - ・放送・通信：B.LEAGUEとの協働による企画立案・セールスの実施
 - ・マーチャンダイジング：各大会ロゴの開発、各大会ロゴを活用した商品化の検討
- ③ その他事業
 - ・スポンサー：育成関連事業のスポンサーの開拓
 - ・出版：ニーズに応じた商品企画の立案・製作、販路の開拓

Road to 2024

- ① 代表関連事業
 - ・スポンサー：マーケティング会社を通じたセールスの実施拡大
 - ・チケット販売：チケット販売（入手）方法の拡大と利便性の向上
 - ・放送・通信：B.LEAGUEとの協働による企画立案・セールスの継続実施
 - ・マーチャンダイジング：日本代表ロゴ商品のアイテム数の拡大・販路の拡大
- ② JBA主管大会事業
 - ・スポンサー：マーケティング会社を通じたセールスの実施拡大
 - ・チケット販売：大会の定着化・認知度の向上によるチケット販売の拡大
 - ・放送・通信：B.LEAGUEとの協働による企画立案・セールスの継続実施
 - ・マーチャンダイジング：各予選大会での会場販売の検討、オンライン販売の充実
- ③ その他事業
 - ・スポンサー：スポンサーメニューの開発と新規開拓
 - ・出版：出版社と連携した出版事業体制の強化

アクションプラン

主 副

③ ブランディング戦略の設計・推進

A B

業務目標

2020年の目標

- ▶▶ 日本代表のブランディング強化
- ▶▶ JBAを含めたバスケットボール界の各種ロゴ・エンブレムのVI統一

2024年の目標

- ▶▶ 日本代表ブランドの認知度の定着
- ▶▶ VI統一に基づく付加価値向上

業務プラン

Road to 2020

- ① 日本代表のブランディング
 - ・ブランディング戦略の策定
 - ・代表ロゴの設計
- ② 各種ロゴ・エンブレムのVI設計
 - ・VI戦略の策定
 - ・JBAロゴ・エンブレムの設計
 - ・各種大会のロゴ・エンブレムの設計
 - ・関係団体のロゴ・エンブレムの設計
- ③ 各種権利(肖像権を含む)の規定整備と保護
 - ・各種権利の規定整備
 - ・各種権利の管理・保護
- ④ B.LEAGUEとの協働によるブランディング強化
 - ・ブランディング戦略の策定

Road to 2024

- ① 日本代表ブランドの活用
 - ・露出拡大策
 - ・イメージ向上策
- ② 各種統一ロゴ・エンブレムの活用
- ③ 各種権利の管理・保護

3-2 日本代表戦・各種大会の再設計・価値向上策の推進

アクションプラン

① 日本代表戦の価値向上策の推進

主

副

A

BCD

業務目標

2020年の目標

- ▶▶ 日本代表戦の観客動員数(男女総数):年間10万人
- ▶▶ 日本代表戦のTV放送試合数(男女総数):年間10試合
- ▶▶ ワールドカップ予選(ホームゲーム)の観客動員数:10,000人/試合

2024年の目標

- ▶▶ 日本代表戦の観客動員数(男女総数):年間15万人
- ▶▶ 日本代表戦のTV放送試合数(男女総数):年間20試合

業務プラン

Road to 2020

- ① 日本代表戦の開催・運営基準の策定
 - ・観客への観戦志向調査の実施・分析
 - ・メディアへの放送・報道志向調査の実施・分析
 - ・観客・選手の安全基準・対策の検討
 - ・開催基準の策定
 - ・運営基準の策定
- ② 日本代表戦のプロモーション戦略の策定
 - ・露出最大化を企図したプロモーション戦略の策定
 - ・放送局と連動したプロモーションの実施
 - ・プロモーション戦略に基づいた選手の起用・活用
- ③ 試合会場・運営のエンターテインメント性の向上
 - ・先進リーグ(NBA等)の調査・研究
 - ・他競技・他エンターテインメントイベント等の調査・研究
 - ・採算性を考慮した演出・場内設備/サービスの検討
- ④ 日本代表戦の観客動員策の実施
 - ・ターゲットの設定
 - ・ターゲットに応じたアプローチ策の検討・実施
 - ・開催地協会、その他協会、Bクラブと連携した動員策の検討・実施

Road to 2024

- ① 日本代表戦運営上の課題の検証
- ② 日本代表戦の開催・運営基準の策定
- ③ 日本代表戦のプロモーション戦略の策定
- ④ 試合会場・運営のエンターテインメント性の向上
- ⑤ 日本代表戦の観客動員策の実施
 - ・ターゲットの設定
 - ・ターゲットに応じたアプローチ策の検討・実施
 - ・開催地協会、その他協会、Bクラブと連携した動員策の検討・実施

アクションプラン

② 既存大会の再設計／新規大会の創設

主

副

A

C D

業務目標

2020年の目標

- ▶ 既存大会の規模拡大
- ▶ 天皇杯/皇后杯事業規模2.5億円
- ▶ ウインターカップ事業規模2.5億円
- ▶ U15選手権大会の創設

2024年の目標

- ▶ 既存大会の規模拡大
- ▶ 天皇杯/皇后杯事業規模3億円、決勝観客動員18,000人(男子:10,000人、女子:8,000人)
- ▶ ウインターカップ事業規模3億円、決勝観客動員18,000人(男子:10,000人、女子:8,000人)
- ▶ クラブユース大会の創設

業務プラン

Road to 2020

- ① 競技会日程調整部門の設置
- ② 天皇杯/皇后杯の再設計
 - ・事業価値向上策の策定
 - ・天皇杯の賞金金額の再考
 - ・運営体制の再構築
 - ・(都道府県予選を含む)開催・運営基準の策定
 - ・(都道府県予選を含む)大会収支構造の再設計
- ③ ウインターカップの再設計
 - ・事業価値向上策の策定
 - ・運営体制の再構築
 - ・(都道府県予選を含む)開催・運営基準の策定
 - ・(都道府県予選を含む)大会収支構造の再設計
 - ・都道府県予選の事業化
 - ・参加対象の再検討
- ④ U15選手権大会の創設
 - ・大会設立委員会の設置
 - ・大会要項の確定
 - ・大会収支構造の設計
- ⑤ 全国ミニ大会のあり方の検討
 - ・検討組織の設置
 - ・方針の答申

Road to 2024

- ① 天皇杯/皇后杯の充実と価値向上
 - ・大会日程の再検討
 - ・競技会場の再検討
 - ・都道府県予選の事業化(ローカル放送、スポンサー等)
- ② ウインターカップの充実と価値向上
 - ・大会日程の再検討
 - ・競技会場の再検討
- ③ U15選手権大会の充実と価値向上
 - ・都道府県予選の充実
 - ・事業価値向上策の策定
- ④ クラブユース大会(U18、U15)の創設
 - ・大会設立委員会の設置
 - ・大会要項の確定
 - ・大会収支構造の設計

アクションプラン

主 副

③ 事業化を実現する運営体制の確立

A BCD

業務目標

2020年の目標

▶ 大会運営体制の確立

2024年の目標

▶ 各都道府県での大会運営体制の確立

業務プラン

Road to 2020

① 大会運営体制の確立(大会毎の運営チーム体制)

- ・日本代表戦
- ・天皇杯/皇后杯
- ・ウインターカップ
- ・U15選手権大会
- ・クラブユース大会
- ・(全国ミニ)

② 国際大会誘致体制の検討

- ・対象大会の研究
- U18アジア選手権大会
- U16アジア選手権大会

③ デジタルマーケティング基盤(システム)の活用

- ・チケットシステム
- ・SNS
- ・大会公式サイト
- ・記録システム
- ・エントリーシステム
- ・大会情報集約・展開
- ・プロモーション

Road to 2024

① 各都道府県における大会運営体制の確立

- ・日本代表戦
- ・天皇杯/皇后杯(予選)
- ・ウインターカップ(予選)
- ・U15選手権大会(予選)
- ・クラブユース大会(予選)

② ユース年代の世界選手権大会の国内誘致(男女同時開催)体制の確立

③ 各都道府県大会におけるデジタルマーケティング基盤(システム)の活用

- ・チケットシステム
- ・SNS
- ・大会公式サイト
- ・記録システム
- ・エントリーシステム
- ・大会情報集約・展開
- ・プロモーション

アクションプラン

主 副

① 情報戦略プランの設計・実施

A B C D

業務目標

2020年の目標

➔ 情報基盤システムの設計および構築

2024年の目標

➔ 情報基盤システムの機能深化と活用

業務プラン

Road to 2020

- ① 情報基盤システム運用体制の確立
 - ・専門知識を有した担当者の配置
- 【情報基盤システムの設計および構築】
- ① B.LEAGUEを含めたKPI(重要業績評価指標)モニター機能の実現
 - ・登録競技者数の推移
 - ・各大会のチケット販売状況
 - ・B.LEAGUEの入場者数推移
- ② 都道府県協会、B.LEAGUE、連盟、Bクラブの情報連動機能の実現
 - ・競技運営情報(日程、結果)(totoデータ含む)
 - ・競技者登録情報
 - ・チケット販売状況
- ③ 情報共有・管理機能の実現
 - ・都道府県協会用の情報(JBA発信情報)プラットフォームの設計
- ④ 情報DBを基盤にしたマーケティング機能の実現
 - ・登録競技者を含む会員データベース(バスケットボール統合DB)の構築
 - ・バスケットボール統合DBを基盤としたWEBサービスの実現
 - ・会員の志向調査の実施

Road to 2024

- 【情報基盤システムの質の向上】
- ① 協会、リーグの各種KPIモニター機能の深化
- ② 都道府県協会、B.LEAGUE、連盟、クラブの情報連動機能の深化
- ③ 情報共有・管理機能の深化
- ④ マーケティング機能の深化
 - ・バスケットボール統合DBから得られる情報の分析機能の追加

アクションプラン

② 情報セキュリティポリシーの構築・運用

主 副

A B C D

業務目標

2020年の目標

▶▶ 情報セキュリティポリシーの策定と運用

2024年の目標

▶▶ 情報セキュリティポリシーと運用体制の安定稼働

業務プラン

Road to 2020

- ① 情報セキュリティポリシーの策定
 - ・JBA、B.LEAGUE・Bクラブの情報セキュリティポリシー策定
 - ・都道府県協会向け情報セキュリティガイドライン策定
- ② 運用体制の確立と運用
 - ・情報セキュリティポリシーに則ったシステムの整備(技術的対策)
 - ・業務効率とのバランスを考慮した組織体制構築
 - ・社内規定整備(人的対策)
 - ・物理的対策の実施
 - ・事故発生時の対応ルール確立
- ③ マーケティング業務への適用
 - ・個人情報の取得と取扱いの規定
 - ・データ活用時の運用ルール

Road to 2024

- ① 情報セキュリティポリシーと運用体制の維持
 - ・法改正、ガイドライン改正への対応
 - ・継続的な社内啓蒙活動
- ② 運用体制の安定稼働
 - ・情報セキュリティポリシーに則ったシステムの整備(技術的対策)
 - ・業務効率とのバランスを考慮した組織体制構築
 - ・社内規定整備(人的対策)
 - ・物理的対策の実施
 - ・事故発生時の対応ルール確立
- ③ マーケティング業務適用の定着化
 - ・個人情報の取得と取扱いの規定
 - ・データ活用時の運用ルール

アクションプラン

主 副

③ デジタルマーケティングの実施

A B

-

業務目標

2020年の目標

- ▶ データベースを活用したマーケティングシステムの構築と運用

2024年の目標

- ▶ マーケティングシステムの本格運用・拡大
- ▶ その時点で最適な情報発信、コミュニケーションの実施

業務プラン

Road to 2020

- ① 情報基盤システムを活用したマーケティングシステムの構築
 - ・登録競技者を含む会員データベース(バスケットボール統合DB)
 - ・バスケットボール統合DBを基盤としたWEBサービス
 - ・会員の志向調査の実施
- ② WEB/SNSを活用した情報発信
 - ・スマートフォンの活用(スマホファースト)
 - ・メディア特性(性別、年代別)を活かしたコンテンツ掲載
 - ・WEB/SNS訪問者やバスケ興味保有者の把握と活用
 - ・明確なKPI(重要業績評価指標)(情報発信後の反応速度・量など)の設計と管理
 - ・レポートツール活用による仮説検証フロー構築
- ③ WEB/SNS以外のコミュニケーションツール(メール、アプリPush通知等)を活用した会員とのコミュニケーション
 - ・会場内コンテンツの提供
 - ・セグメント別コミュニケーション
- ④ 先端技術の活用
- ⑤ アーカイブ機能の構築

Road to 2024

- ① マーケティングシステムの質の向上
 - ・統合DBから得られるデモグラフィック、各種行動履歴の集計、分析
 - ・アンケート、インタビューなど定性情報も合わせた分析
- ② WEB/SNSを活用した情報発信の強化
 - ・メディア特性(性別、年代別)を活かしたコンテンツ掲載
 - ・WEB/SNS訪問者やバスケ興味保有者の把握と活用
 - ・明確なKPIの設計と管理
 - ・レポートツール活用による仮説検証フロー構築
- ③ WEB/SNS以外のコミュニケーションツールを活用した会員とのコミュニケーションの深化
 - ・会場内コンテンツの提供
 - ・セグメント別コミュニケーション
- ④ 先端技術の活用
- ⑤ アーカイブ機能の継続運用

4-1 競技者・エンジョイ・3×3人口の拡充

アクションプラン

主 副

① 登録制度・大会環境の整備／リーグ文化の醸成

A CD

業務目標

2020年の目標

- ▶ 競技者人口(登録者数)を75万人にする
- ▶ 全都道府県で全カテゴリーのリーグ戦を実施する
- ▶ 全都道府県で(各)1つ以上の地域クラブを作る

2024年の目標

- ▶ 競技者人口(登録者数)を85万人にする
- ▶ 特定カテゴリーの全国リーグ・ブロックリーグの創設(ピラミッド型リーグ構造の完成)

業務プラン

Road to 2020

- ① 大会開催に関わる権利・体制・手続きの整理
 - ・権利(主催権、主管権等)の概念の整理と運用の整備
 - ・JBA内の競技に関する所管の整理
- ② 登録制度の再整備
 - ・現行登録制度の検証・再設計
- ③ 都道府県内でのリーグ戦化の推進
 - ・一般カテゴリー
 - ・U18カテゴリー
 - ・U15カテゴリー
 - ・U12カテゴリー
 - ・シニアカテゴリー
- ④ 競技者(登録者)拡大施策
 - ・大会要項の再設計(参加要件の緩和等)
 - ・JBA未登録市区郡町村登録者の取込み
- ⑤ クラブチームの活動の場の確保
- ⑥ 地域クラブの創設支援
 - ・総合型地域スポーツクラブへのバスケのメニュー化促進
- ⑦ T0/スタッツ要員の養成

Road to 2024

- ① 特定カテゴリーの全国リーグ・ブロックリーグの創設
 - ・一般カテゴリー
 - ・U18カテゴリー
 - ・U15カテゴリー
- ② 都道府県内でのリーグ戦化の一層の推進
- ③ 競技者(登録者)拡大施策
- ④ クラブチームの全国大会の創設

4-1 競技者・エンジョイ・3×3人口の拡充

アクションプラン

主 副

② あらゆる年代層のプレー環境の整備・提供

A C D

業務目標

2020年の目標

- ▶ エンジョイ人口を10万人にする
- ▶ キッズ年代対象イベントへの参加者を1万人/年にする
- ▶ シニア年代の試合参加者を3万人/年にする

2024年の目標

- ▶ エンジョイ人口を20万人にする
- ▶ キッズ年代対象イベントへの参加者を2万人/年にする
- ▶ シニア年代の試合参加者を6万人/年にする

業務プラン

Road to 2020

- ① エンジョイ層の拡大施策の企画・立案
 - ・未登録者対象バスケットボールイベントの実施
 - ・民間イベント会社等との連携
 - ・既存イベントへのアプローチ
- ② キッズ年代の参加促進施策
 - ・対象イベントの企画・立案
 - ・対象大会での独自ルールの策定
- ③ シニア年代の参加促進施策
 - ・経験者(過去の登録者)への情報提供
 - ・対象大会での独自ルールの策定

Road to 2024

- ① エンジョイ層の拡大施策の充実
- ② キッズ年代の参加促進施策の充実
- ③ シニア年代の参加促進施策の充実

4-1 競技者・エンジョイ・3×3人口の拡充

アクションプラン

③ 3×3の普及促進

主

副

A

C D

業務目標

2020年の目標

- ▶ 3×3競技者人口(登録者数)を2万人にする
- ▶ 3×3オーガナイザー登録を150団体にする
- ▶ 全都道府県で3×3イベントを実施する

2024年の目標

- ▶ 3×3競技者人口(登録者数)を3万人にする
- ▶ 3×3オーガナイザー登録を300団体にする
- ▶ 全都道府県で3×3イベントを(各)3回以上(総数150回以上)/年実施する

業務プラン

Road to 2020

- ① 3×3の現行政策の見直し
 - ・現行政策の検証・見直し
 - ・現行体制の見直し
- ② 3×3登録制度の再整備
 - ・現行登録制度の検証・再設計
- ③ 3×3イベントの企画・立案
- ④ ユース年代のプレー環境充実策の実施
- ⑤ シニア年代のプレー環境充実策の実施
- ⑥ 3×3競技ルール講習会の実施
- ⑦ 3×3普及事業への都道府県協会支援制度の構築

Road to 2024

- ① 3×3登録制度の再整備
 - ・登録制度の検証・再設計
- ② 3×3イベントの企画・立案
- ③ ユース年代のプレー環境充実策の実施
- ④ シニア年代のプレー環境充実策の実施
- ⑤ 3×3普及事業への都道府県協会支援制度の充実・拡大

アクションプラン

主 副

① 審判ライセンス制度の整備・推進

A C

業務目標

2020年の目標

- ➔ 審判ライセンス保有者を4万5,000人にする
- ➔ プロ審判員を輩出する
- ➔ FIBA基準上限数の国際審判員を常時輩出する
- ➔ オリンピック・ワールドカップに指名される国際審判員の常時輩出

2024年の目標

- ➔ 審判ライセンス保有者を7万人にする
- ➔ プロ審判員を20人輩出する
- ➔ FIBA基準上限数の国際審判員を常時輩出する
- ➔ オリンピック・ワールドカップの決勝トーナメントに指名される国際審判員の常時輩出

業務プラン

Road to 2020

- ① 審判ライセンス制度の確立
 - ・審判インストラクターの養成・育成
 - ・審判養成・育成カリキュラムの作成
 - ・審判講習会の実施
 - ・審判評価制度(割当審判評価を含む)の確立
 - 評価基準の策定
 - 評価者の養成
 - ・審判割当システムの確立(割当基準、割当者、割当方法等)
- ② 若年審判員の養成・ケア
- ③ 女性審判員の養成・ケア
- ④ 審判制度の運用体制の確立
 - ・現行体制の見直し(運用部門・機関の設置)
 - ・審判関連規定の整備
- ⑤ 審判養成機関(アカデミー)の設立検討
 - ・プロ審判員の養成
- ⑥ 学習教材・システムの開発
- ⑦ 海外派遣制度の確立
- ⑧ 国際審判員の養成
 - ・FIBA競技セクションとの緊密な関係構築
 - ・FIBA国際審判養成講習会の日本開催
 - ・海外審判員の招聘
- ⑨ 選手からの審判員転向・養成システムの確立

Road to 2024

- ① 審判養成機関(アカデミー)の設立
- ② 審判ライセンス制度の質の向上
- ③ 学習教材・システムの拡充
- ④ 国際審判員養成制度の質の向上

アクションプラン

主 副

② 指導者ライセンス制度の整備・推進

A C

業務目標

2020年の目標

- ➔ 指導者ライセンス保有者を6万人にする
- ➔ S級ライセンス指導者を100人輩出する

2024年の目標

- ➔ 指導者ライセンス保有者を8万人にする
- ➔ S級ライセンス指導者を150人輩出する

業務プラン

Road to 2020

- ① 指導者ライセンス制度の確立
 - ・指導者インストラクターの養成・育成
 - ・指導者養成・育成カリキュラムの作成
 - ・指導者講習会の実施
 - ・都道府県における指導者講習会の実施
- ② 指導者制度の運用体制の確立
 - ・現行体制の見直し(運用部門の設置)
- ③ 学習教材・システムの開発
- ④ 海外派遣制度の確立
- ⑤ 海外の指導者インストラクターの招聘
- ⑥ トップリーグ選手のセカンドキャリアとしての指導者養成システム
- ⑦ 女性指導者の養成・ケア
- ⑧ 世界のトレンド・JBAの方針等の情報伝達的手段・方法の確立
 - ・指導者対象講習会(バスケットボール・カンファレンス)

Road to 2024

- ① 指導者の質の向上
 - ・競技志向チームの指導者の養成
 - ・普及志向チームの指導者の養成
- ② 指導者ライセンス制度の見直しと最適化
- ③ 指導者制度の運用体制の見直しと最適化
- ④ 学習教材・システムの質の向上
- ⑤ 海外の指導者インストラクターの招聘
- ⑥ トップリーグ選手のセカンドキャリアとしての指導者養成システムの質の向上
- ⑦ 女性指導者の養成・ケア
- ⑧ 指導者対象講習会(バスケットボール・カンファレンス)の内容充実

アクションプラン

主 副

③ マネジメント人材の養成

A B C

業務目標

2020年の目標

- ▶ バスケットボールマネジメント人材(組織マネジメント、クラブマネジメント)の養成制度の確立

2024年の目標

- ▶ バスケットボールマネジメント人材養成プログラム修了者50名輩出
- ▶ 都道府県協会(専務理事)の養成プログラム受講義務化
- ▶ トップリーグクラブ代表者の養成プログラム受講義務化

業務プラン

Road to 2020

- ① マネジメント人材養成に関する検討
 - ・マネジメント人材養成検討機関の設置
 - ・バスケットボールマネジメント人材の定義付け
 - ・情報収集
- ② バスケットボールマネジメント人材の養成制度の確立
 - ・専任担当者の配置
 - ・JFAスポーツマネジャーズカレッジとの連携検討
 - ・現状調査(国内外)
 - ・養成プログラムのカリキュラム作成
- ③ バスケットボールマネジメント人材養成プログラムの実施
- ④ 都道府県バスケットボール協会対象マネジメント勉強会・研修会の実施
- ⑤ B.LEAGUEと協働したクラブマネジメント勉強会・研修会の実施
- ⑥ JBA事務局管理職(候補者含む)を対象としたマネジメント研修制度の確立・実施

Road to 2024

- ① バスケットボールマネジメント人材養成プログラムの内容充実・質の向上
- ② バスケットボールマネジメント人材養成プログラムの実施
 - ・受講対象の拡大
 - ・実施回数の拡大
- ③ 修了生の情報交換の場の提供
- ④ 都道府県バスケットボール協会対象マネジメント勉強会・研修会の実施
- ⑤ B.LEAGUEと協働したクラブマネジメント勉強会・研修会の実施
- ⑥ JBA事務局管理職(候補者含む)を対象としたマネジメント研修制度の実施

4-3 バasketボールを楽しむ環境の整備

アクションプラン

主	副
---	---

① 「見る人」のための環境整備

A	B	-
---	---	---

業務目標

2020年の目標

➡ バasketボールファンを40万人にする

2024年の目標

➡ バasketボールファンを60万人にする

業務プラン

Road to 2020

- ① 登録者以外のファン情報の把握方法の検討
・Basketボール統合DBの活用を検討
- ② B.LEAGUEとの協働によるBasketボールファンの開拓
・開拓企画の検討
・来場者目線でのアリーナ基準・演出基準の策定
・来場者促進策
- ③ Basketボールファン対象イベントの実施
- ④ メディア・WEBを活用したバスケコンテンツ(映像)の配信・露出
- ⑤ SNSを活用した情報の露出・拡散
- ⑥ ファン同士の交流促進策

Road to 2024

- ① 登録者以外のファン情報の把握と活用
- ② B.LEAGUEとの協働によるBasketボールファンの開拓
・開拓企画の検討
・来場者目線でのアリーナ基準・演出基準の策定
・来場者促進策
- ③ Basketボールファン対象イベントの実施
- ④ メディア・WEBを活用したバスケコンテンツ(映像)の配信・露出の拡大
- ⑤ SNSを活用した情報の露出・拡散
- ⑥ ファン同士の交流促進策

4-3 バasketボールを楽しむ環境の整備

アクションプラン

② 他産業・異業種とのコラボレーション

主

副

A

B

業務目標

2020年の目標

▶ 他産業・異業種とのコラボレーションによる「Basketボールを楽しむ環境」の多角的拡大

2024年の目標

▶ 開発コンテンツ・商品の質の向上と定着

業務プラン

Road to 2020

- ① コンテンツ産業とのコラボレーション
・ゲーム
・アニメ、漫画
- ② アパレル産業とのコラボレーション
・ストリートファッション
- ③ アミューズメント産業とのコラボレーション
- ④ スポーツ用品・用具メーカー/ショップとのコラボレーション
- ⑤ 複合型商業施設とのコラボレーション
- ⑥ 他競技とのコラボレーション
- ⑦ 新たなBasketボール類似スポーツ/ゲームの開発

Road to 2024

- ① 他産業・異業種との時代に即した新たなコンテンツの開発/コラボレーション
- ② 開発コンテンツ・商品の質の向上と定着

4-3 バスケットボールを楽しむ環境の整備

アクションプラン

③ 全国各地(屋外を含む)でのバスケットボールゴールの設置推進

主 副

A C

業務目標

2020年の目標

- ▶▶ 施設・用具基準・認定制度の確立
- ▶▶ 全国10箇所にバスケットボールゴールを寄贈・設置する

2024年の目標

- ▶▶ 全国20箇所にバスケットボールゴールを寄贈・設置する

業務プラン

Road to 2020

- ① 施設・用具基準・管理方法の整備
 - ・現行施設用具委員会/検定工場会の体制見直し
 - ・他競技の事例調査
 - ・施設・用具基準の策定と認定制度の確立
- ② バスケットボールゴール設置推進
 - ・基金の創設(ベルマーク基金等の活用)
 - ・協賛による寄贈
 - ・地域行政・学校・幼稚園・企業等への働き掛け
 - ・toto助成の活用に向けた働き掛け
- ③ バスケットボールゴール情報MAPの作成と展開
 - ・実態調査
 - ・情報MAPのプラットフォームの企画・設計

Road to 2024

- ① 施設・用具基準の更新
- ② バスケットボールゴール設置推進
 - ・協賛による寄贈
 - ・地域行政・学校・幼稚園・企業等への働き掛け
- ③ バスケットボールゴール情報MAPの継続更新と充実

アクションプラン

① 日本におけるアリーナのあるべき姿の提案

主 副

A B

業務目標

2020年の目標

- ➡ アリーナ基準を策定する(～2018年)
- ➡ 地域特性に応じた都市型アリーナモデル(第1弾)を策定する

2024年の目標

- ➡ 地域特性に応じた郊外型アリーナモデル(第2・3弾)を策定する

業務プラン

Road to 2020

- ① アリーナ研究組織の設置
 - ・国内外のアリーナ調査
 - ・アリーナ基準の策定
 - ・(エンターテインメント性を考慮した)アリーナ目標基準の策定
 - ・B.LEAGUEとの協働による地域特性に応じた都市型アリーナモデルの検討(第1弾)
 - ・ナショナルバスケットボールアリーナの施設要件検討
 - ・既存アリーナの具体的改修提案の検討
- ② アリーナモデルを活用した啓蒙活動の実施
 - ・説明会の実施
 - ・紹介用ツールの作成

Road to 2024

- ① アリーナ研究組織の活動
 - ・国内外のアリーナ調査
 - ・アリーナ基準の更新
 - ・アリーナ目標基準の更新
 - ・B.LEAGUEとの協働による地域特性に応じた郊外型アリーナモデルの検討(第2・3弾)
- ② アリーナモデルを活用した啓蒙活動の実施
 - ・説明会の実施
 - ・紹介用ツールの作成

アクションプラン

主	副
---	---

② 地域行政との関係構築／Bクラブホームアリーナを含めたアリーナ新設・改修への働き掛け A B C

業務目標

2020年の目標

- ▶ 事業推進のための都道府県協会とBクラブの認識共有と体制の構築
- ▶ (2018～2019年度内に)B.LEAGUEホームアリーナ(B1)基準を満たすアリーナ新設・改修計画の策定を(Bクラブホームアリーナ以外で)2つ以上の自治体で達成する

2024年の目標

- ▶ (2018～2023年度内に)B.LEAGUEホームアリーナ(B1)基準を満たすアリーナ新設・改修計画の策定を(Bクラブホームアリーナ以外で)6つ以上の自治体で達成する

業務プラン

Road to 2020

- ① B.LEAGUEとの協働による事業推進体制構築
- ② 情報収集活動および情報発信
 - ・行政の体育館改修新築情報の収集
 - ・Bクラブホームアリーナの評価
- ③ Bクラブと所属する都道府県協会との関係構築
 - ・アリーナ勉強会の実施
 - ・行政訪問
- ④ 候補施設の選定と改修(新設)計画の立案・提案
- ⑤ アリーナ化推進キャンペーンの実施

Road to 2024

- ① 情報収集活動および情報発信
 - ・行政の体育館改修新築情報の収集
 - ・Bクラブホームアリーナの評価
- ② Bクラブと所属する都道府県協会との関係構築
 - ・アリーナ勉強会の実施
 - ・行政訪問
- ③ 候補施設の選定と改修(新設)計画の立案・提案

アクションプラン

主	副
---	---

③ 「ナショナルバスケットボールアリーナ」新設に向けた各種関連組織への働き掛け

A	B	-
---	---	---

業務目標

2020年の目標

▶ ナショナルバスケットボールアリーナ建設・資金計画の立案

2024年の目標

▶ 建設地とのナショナルバスケットボールアリーナ新設に関する基本協定の締結

業務プラン

Road to 2020

- ① 事業推進体制の構築
 - ・推進プランの設計
 - ・アリーナ活用計画の検討・作成
- ② アリーナ建設構想プロジェクト概要の策定
- ③ アリーナ建設の資金計画の検討
- ④ 建設候補地のフィジビリティスタディ(基本調査)への着手
 - ・候補地調査
 - ・情報収集
- ⑤ 関連組織への働き掛け

Road to 2024

- ① アリーナ設計予定図の作成
- ② 建設候補地の行政への働き掛け
- ③ 建設地・協力団体等とのアリーナ新設に関する基本協定締結を目指した活動の展開

アクションプラン

主 副

① 国民の健康増進・健全育成への寄与

A E

業務目標

2020年の目標

- ➔ 国民の健康増進・健全育成事業に関わる地方公共団体・健康増進関連団体・障害福祉関係団体との連携強化

2024年の目標

- ➔ バasketボール/スポーツを通じた体力向上・健康増進イベントを年50回以上実施する
- ➔ 障がい者向けBasketボール教室を年20回以上実施する
- ➔ Basketボール/スポーツを通じた健全育成を目的とした講師派遣を年10回以上実施する

業務プラン

Road to 2020

- ① 事業推進体制の構築
 - ・推進プランの設計
 - ・支援者の確保と助成金の活用
- ② Basketボール/スポーツを通じた体力向上・健康増進への取り組み
 - ・世代に応じた体力向上・健康増進プログラムの開発（新たなBasketボール類似スポーツ/ゲームの開発を含む）
 - ・体力向上・健康増進事業に取り組んでいる地方公共団体・健康増進関連団体の調査・連携構築
 - ・指導者の派遣
 - ・トップ選手の活用
- ③ 障がい者スポーツの推進
 - ・障がい者Basketボール競技の統括団体の設置と関連団体の法人化促進
 - ・指導プログラムの開発
 - ・障害福祉関係団体との連携構築
 - ・指導者の派遣
 - ・トップ選手の活用
- ④ Basketボール/スポーツを通じた健全育成への取り組み
 - ・健全育成プログラムの開発
 - ・人材(講師)の育成と派遣
 - ・トップ選手の活用

Road to 2024

- ① Basketボール/スポーツを通じた体力向上・健康増進への継続的取り組み
 - ・体力向上・健康増進プログラムの質の向上
 - ・体力向上・健康増進事業に取り組んでいる地方公共団体・健康増進関連団体との協働イベントの実施
 - ・指導者の派遣
 - ・トップ選手の活用
 - ・ノウハウの蓄積と情報提供
- ② 障がい者スポーツの継続的推進
 - ・指導プログラムの質の向上
 - ・障害福祉関係団体との協働イベントの実施
 - ・指導者の派遣
 - ・トップ選手の活用
 - ・ノウハウの蓄積と情報提供
- ③ Basketボール/スポーツを通じた健全育成への継続的取り組み
 - ・健全育成プログラムの質の向上
 - ・人材(講師)の育成と派遣
 - ・トップ選手の活用
 - ・ノウハウの蓄積と情報提供

アクションプラン

主 副

② 地域振興・活性化への寄与

A B C

業務目標

2020年の目標

- ▶▶ 特定地域のスポーツコミッションと既存大会の地域開催を実施する
- ▶▶ バスケットボール推進特区を全国で2箇所以上認定する

2024年の目標

- ▶▶ 特定地域のスポーツコミッションと既存大会の地域開催を実施する
- ▶▶ バスケットボール推進特区を全国で5箇所以上認定する

業務プラン

Road to 2020

- ① 地域スポーツコミッションとの連携構築
 - ・既存大会・事業の地域開催
- ② プロクラブを核とした街づくりの推奨
 - ・ホームアリーナの活用
 - ・所属選手の活用
- ③ バスケットボール推進特区の認定
 - ・推進特区制度の構築・認定
 - ・国際大会誘致による地域活性化策の推奨
 - ・日本代表合宿実施による地域活性化策の推奨
- ④ 被災地復興支援活動の実施
- ⑤ 廃校の利活用
 - ・廃校調査の実施
 - ・廃校の体育館の有効活用方法の検討
 - ・廃校を活用した地域活性イベントの検討

Road to 2024

- ① 地域スポーツコミッションとの連携強化
 - ・既存大会・事業の地域開催
- ② プロクラブを核とした街づくりの継続推奨
 - ・ホームアリーナの活用
 - ・所属選手の活用
 - ・他地域への情報提供
- ③ バスケットボール推進特区制度の活用
 - ・国際大会誘致による地域活性化策の継続推奨
 - ・日本代表合宿実施による地域活性化策の継続推奨
 - ・他地域への情報提供
- ④ 被災地復興支援活動の継続実施
- ⑤ 廃校の利活用
 - ・廃校調査の継続実施
 - ・廃校の地域クラブ拠点化の推進
 - ・廃校を活用した地域活性イベントの実施

アクションプラン

主 副

③ 環境保全への寄与

A BCD

業務目標

2020年の目標

- ▶▶ 環境保全活動実施計画の策定
- ▶▶ 登録者・加盟チーム・関係団体への活動推奨と表彰制度の検討

2024年の目標

- ▶▶ 登録者・加盟チーム・関係団体への活動推奨と表彰の定着実施

業務プラン

Road to 2020

- ① 各大会会場でのゴミの分別推奨
- ② 各大会会場内の空調温度設定の最適化
- ③ バスケットボール用具の再利用・リサイクルの推奨
- ④ 各大会・組織内のペーパーレス化推進
- ⑤ 加盟チームによる地域の清掃活動の推奨
- ⑥ 環境保全活動に対する表彰制度の設計

Road to 2024

- ① 各大会会場でのゴミの分別推奨
- ② 各大会会場内の最適な空調温度設定の継続推奨
- ③ バスケットボール用具の再利用・リサイクルの継続推奨
- ④ 各大会・組織内のペーパーレス化継続推進
- ⑤ 加盟チームによる地域の清掃活動の継続推奨
- ⑥ 環境保全活動に対する表彰の実施

アクションプラン

主 副

① 国際交流・協力機関との連携

A

-

業務目標

2020年の目標

➔ JICAとの協力体制構築

2024年の目標

➔ JICAとの関係強化
➔ 海外からの複数国視察受け入れ

業務プラン

Road to 2020

- ① Sports for Tomorrowプログラムへの協力
- ② スポーツ分野におけるJICAとの協働
 - ・JICAとの協力関係構築
 - ・各大会会場内でのJICAブースの設置
 - ・青年海外協力隊への人材斡旋・紹介
- ③ アジア地域の各国NFとの交流事業
 - ・指導者の海外(アジア地域)派遣検討
 - ・各国NF/リーグの視察の受け入れ

Road to 2024

- ① スポーツ分野におけるJICAとの協働促進
- ② アジア地域の各国NFとの交流事業促進
 - ・指導者の海外(アジア地域)派遣の実施
 - ・各国NF/リーグの視察の受け入れ

アクションプラン

主 副

② 国際人材育成の制度設計

A -

業務目標

2020年の目標

- ▶ 「JOC国際人養成アカデミー」修了者を輩出する
- ▶ 国際人養成セミナーの実施
- ▶ 海外バスケットボール団体へのインターンシップ制度の確立

2024年の目標

- ▶ 「JOC国際人養成アカデミー」修了者を複数人輩出する
- ▶ 国際人養成セミナーの定着実施
- ▶ 海外バスケットボール団体へのインターンシップ制度の実施

業務プラン

Road to 2020

- ① 「JOC国際人養成アカデミー」の活用
- ② 他国NFとの人材交流(派遣(研修)と受け入れ)
- ③ 国際人養成セミナーの実施
 - ・国際バスケットボール界からの講師招聘
 - ・他業種の海外取り組み事例の研究
- ④ 大学等教育機関との連携による公開講座の活用
- ⑤ 海外バスケットボール団体へのインターンシップ制度の確立
 - ・フィジビリティスタディ
 - ・海外団体へのコンタクト
 - ・インターンシップ制度の制度設計
 - ・セレクションの方法検討
- ⑥ FIBAへの人材養成制度構築の提言・要請

Road to 2024

- ① 「JOC国際人養成アカデミー」の継続活用
- ② 他国NFとの人材交流(派遣(研修)と受け入れ)の活発化
- ③ 国際人養成セミナーの定着実施・質の向上
- ④ 大学等教育機関との連携による人材育成
- ⑤ 海外バスケットボール団体へのインターンシップ制度の質の向上

アクションプラン

主 副

③ バスケットボールを通じた文化交流

A -

業務目標

2020年の目標

- ▶ ジュニア世代のチーム/競技者を対象とした異文化交流事業の確立
- ▶ 日本代表チームの海外遠征先における現地交流企画の実施
- ▶ 日本在住の外国人との文化交流イベントの実施

2024年の目標

- ▶▶ ジュニア世代のチーム/競技者を対象とした異文化交流事業の定着化
- ▶▶ 日本代表チームの海外遠征先における現地交流企画を定着実施
- ▶▶ 日本在住の外国人との文化交流イベントの定着実施

業務プラン

Road to 2020

- ① ジュニア世代のチーム/競技者を対象とした異文化交流事業
 - ・異文化交流事業の企画立案
 - ・交流先候補の調査
 - ・受け入れ態勢の構築
 - ・日本側交流対象チーム/競技者のセレクト方法の検討
 - ・海外チーム/競技者の異文化交流を目的とした訪問受け入れ
 - ・国内チーム/競技者の異文化交流を目的とした海外訪問の実施
- ② 日本代表チームの海外遠征先における現地交流
 - ・現地交流企画の立案
 - ・外務省、代表派遣国大使館への企画提案
 - ・日本代表チームおよび現地関係団体との調整
- ③ 日本在住の外国人との文化交流イベントの実施
 - ・既存イベント・実施団体の調査
 - ・大使館等へのアプローチ
 - ・イベント概要の検討
 - ・安全対策の検討・計画

Road to 2024

- ① ジュニア世代のチーム/競技者を対象とした異文化交流事業の継続実施
- ② 日本代表チームの海外遠征先における現地交流の継続実施
- ③ 日本在住の外国人との文化交流イベントの実施・拡大

Break the Border